



第 8 号 平成23年 3 月
発行 番町小学校同窓会
〒102-0085 千代田区六番町 8
東京都千代田区立番町小学校内
TEL 080-3012-1001 FAX (03)3263-3731
郵便振替口座 00160-7-352085
編集 番町小学校同窓会事務局
印刷 株式会社 精興社

平成23（2011）年3月11日（金）午後2時46分に発生した東日本大震災は、各地に未曾有の大惨事をもたらしました。翌日には、長野県北部地震も起きました。同窓生の皆様、ご家族の皆様はご無事でしたでしょうか。この災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そのご家族・関係者の皆様には心からお見舞い申し上げます。また、行方不明になっている方々の安否が一刻も早く確認されること、そして一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

このような事態が起きたとはいえ、本年12月4日、いよいよ番町小学校は創立140周年を迎えます。皇太子殿下のご台臨を仰いだ創立120周年から20年が経ちますが、これまで築かれた番町小学校の栄えある歴史と伝統を回顧すると共にさらなる歴史を創造していく節目として、過去の事跡を継承し記念事業を行うことは、同窓会として意義深いものがあるのではないのでしょうか。同窓生の皆様には何卒ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

今号は、節目の年に在籍していた方々に、その頃の思い出を書いて頂きました。きっと同じような思い出をお持ちの方も、いらっしゃるのではないのでしょうか。また、昨年の12月4日（土）に開いたHome Coming Day、前年度のHome Coming Day（平成21年12月5日）で学年会・クラス会を開いた学年の幹事の方にも、感想をお願いしました。

創立80周年の時に在籍された創立140周年記念事業協賛会会長の草刈陸郎さん（昭和26年度卒）の思い出です。

番町小学校の思い出

草刈 隆郎



私の生まれは昭和15（1940）年、正に第2次世界大戦前夜だ。従って、幼年時代は大戦の真っ最中で、麻布に在った我が家は空襲で消失。山梨県の山間地等疎開先を転々として、祖父がいた千葉県北条－今の館山市－で終戦を迎えた。だから、小学校は「北条小学校」が振り出しで、その後千葉県市川の外れ鬼越という所に引越し、2年生から京成で3駅先の菅野にある「日の出学園」に転校した。今の市川市は堂々たる東京の近郊都市だが、当時の我が家近辺には大きな乳牛の牧場がある、といった長閑な田園だった。「日の出学園」も大きな木造の校舎に広々とした黒土の校庭とグ

ランドが有り、放課後はここで大いに遊び回ったものだ。

この頃から日本もようやく復興の時代に入りつつあり、我が家でも両親がそろそろ麻布に家を再築しよう、という気になってきたようだ。ならば子ども達は一足先に東京の学校に、という事だったのだろう、私は昭和25（1950）年、5年次から番町小学校へ編入させてもらった。ちなみに両親は、どうせなら東京でNo.1との評判高い番町に、と強く希望していたようだ。

従って、私が番町小にお世話になったのは、5年生・6年生の2年間。たつた2年では「番町の思い出」など語る資格は私にはないのではないかとコンプレックスを感じつつこの文を認（した）めている。が、一方この2年間は、私にとって小学校生活6年間の中で、最も濃密な掛け替えの無い時間であつたことは確かだ。まず、田舎から都心の学校に移って来ると、多くのカルチャーショックが待ち受けていた。木造の簡素な校舎が一転鉄筋校舎に、しかも当時は麹町中学が同居していて、その人口密度の濃さにびっくり。校庭と言えば広々とした土から、決して広くないコンクリート敷き。でも、同級生は、田舎の生徒に較

べて何と洗練されスマートなことか！そして、いつも笑顔を絶やさず、キラキラした目で、新参田舎者の私をすぐに仲間に入れてくれた。「いじめ」などかけられない世界だ。こうした雰囲気は絵画に造詣が深く、ベレー帽がシンボルマークの優しさに満ち溢れた担任、福島先生のご指導に負うところが大きいことが今になって身に沁みる。感謝感謝である。



2年間の在学中の最大のイベントは、何と言っても昭和26（1951）年12月に举行された創立80周年記念式典だ。学校中が、異様な興奮と張り詰めた空気に包まれていた。日頃新聞ではお見掛けしていた天皇陛下であつたが、行幸されて直接拝顔の栄に浴したのは忘れ難い思い出、大事に心にしまつてある。それもさることながら、今一つ何故か忘れ難いのは、緊張の中にも堂々と天皇陛下を先導された笠倉校長先生、とりわけその何とも見事な剃髪（ていはつ）ぶりだ。あれから早や60年、正に馬齢の積重ねだな、と感慨一入（ひとしお）の今日この頃である。

6年生になって、今ひとつ印象深い思い出として残っているのは、喜辰斗政彦さんという生徒が転校して来たことだ。整った容貌と、ピンと背筋が伸びた凛とした姿に、子供心にも惹きつけられたのを覚えている。それもその筈、当時は市川團子と名乗り、その後歌舞伎界の大御所となられる3代目市川猿之助その人だったのだから。また、何かの学校の行事の折、彼のお母様をお見受けしてまたビックリ、何たる絶世の美女か。俺にも、この美女の爪の垢でも頂いたお袋がいたら、少しはましなツラに…、と、羨（うらや）んだものだ。これ又無理も無い、このお母様こそ、当時美人女優として高名な高杉早苗さんだったとは、後から知った。

在校2年間に親しくして頂いた学友とは、いまだに交流を続けている方々も多く、私の大切な宝物である。卒業後、同じ学区の麹町中学校に進んだ同級生の多かつたことが、一つの要因だと思

う。ただ残念なのは、かなり長く定期的に関われていた番町のクラス会のお誘いが無いことだ。往時、早熟にも、密かに憧れていたYさんにも是非再会したい想いもこれ有り…。幹事の方、何卒よろしくお願い致します。

川村知重さん（昭和31年度）は、創立85周年の時、6年生でした。

創立85周年の頃

川村 知重

我々の学年は、入学した昭和26（1951）年に昭和天皇をお迎えして創立80周年を祝い、昭和31（1956）年12月に85周年を迎えた。そういう意味ではおめでたい学年であった。

私は、栃木県日光の清滝小学校から昭和28



（1953）年4月に転校してきたので、残念ながら、80周年のお祝いはしていない。80周年が陛下をお迎えして盛大に祝われたので、85周年はそれほど盛大なお祝いの行事がされた記憶はあまりないが、秋の大運動会が現在の迎賓館の中庭で行われたのを記憶している。当時の迎賓館の建物は、空襲に遭ったままで荒れ果てており、構内に自由に入ることができた。建物の中に入ろうと思えば入れたと思う。

例年、運動会は、狭い番町小学校の校庭で行われていたので、85周年記念として迎賓館中庭で盛大に行われたのであろう。事務局から原稿の依頼があったので、押し入れから卒業アルバムを取り出して、久しぶりに眺めた。確かに迎賓館で行われた写真が3枚ある。棒倒し、徒競走、器械体操の写真で、私もリレーの選手で走った記憶がある。担任の福森幸男先生には、3年生から卒業まで教えて頂いた。先生には勉強、物の考え方を教えて頂いたが、体操の時間には器械体操を熱心に教えて頂いた。写真に写っている跳び箱の黒澤君の演技は、見事なものである。福森先生も補助者として、一緒に写っている。今の先生方にこのような指導ができるであろ





うか。その先生も3年前に鬼籍に入った。

アルバムの中から、卒業式で話された山口友吉校長の式辞がでてきた。鼻の下にひげを生やしたいかにも校長先生と言う風貌で、人格も優れ、慕われていた。式辞の中に、昭和32（1957）年3月15日に千代田区10周年

記念式典が挙げられ、千代田区歌（作詞・佐藤春夫、作曲・山田耕筰）が制定されたとある。昭和22（1947）年に23区制度となり、麹町区と神田区が一緒になって千代田区になった。我々の学年が、初めてその千代田区歌を卒業式で披露したことになっている。当時の校舎は、空襲で焼かれた建物を取り敢えず何とか修復して使っていた。今から思うと大変な時代であったが、子供心には、それが当たり前だと感じていた。物が豊富で、ITの発達した現在の子供達と、戦後間もなく物があまりない時代を過ごした我々の子供時代とどちらが幸せかというと、我々の子供時代の方が幸せであったように感じている。いまは何か大切な物を忘れているのではないだろうか。

創立90周年の時に在籍した岩瀬裕全さん（昭和36年度卒）、創立95周年の時に6年生だった新井充さん（昭和41年度）、共にH型の旧校舎で学びました。

番町定点観測60年、 “いつまでもいると思うな 親と番町”

岩瀬 裕全

私が番町に通っていた昭和31（1956）年から37（1962）年の時期は、まだ終戦の焼け跡があちこちに残る、でも、今から思えばおおらかだった時代から高度成長期の活気のある時代への大きな変わり目でした。

悪ガキ仲間で古い屋敷の焼け跡に忍び込んで、色々探検をしました。校舎の地下の職員室の下あたりが、当時まだ空襲の消火の名残で黒く深い水たまりになっていて、電気もつかず、昼間から肝試しの出来る恐ろしい空間

になっていました。放課後は、毎日たくさんの友達がうちの庭にやって来て、暗くなるまで三角野球をやりました。「おい岩瀬、早く宿題済ませろよ。」母が厳しくて宿題とドリルが終わるまで遊ばせてくれないので、友達が適当な時間を見計らって救出に来てくれるのです。日曜日には四谷の迎賓館前の空地で、誰にも文句を言われずに一日中野球に明け暮れました。

1年の担任の石垣先生は、私の可愛がっていた妹が、番町幼稚園の帰りによく教室にやって来て私の隣の席にちょこんと座っていても、ニコニコと笑って許して下さいました。給食の里芋（今でも嫌い）が食べられずに下校出来ない時も、何時間も仕事をしながら傍らで待ち続けて下さいました。3年の鈴木雅子先生は、日曜日に何人もの子供たちをご自宅まで呼んでくださり、本当に親身に色々なことを教えて下さいました。5年の安部先生は、ソ連の抑留から復員して間もなくでした。放課後遅くまで、英国軍のゲルカ兵が狙撃兵として優秀で、明治38（1885）年に設計された日本の旧式な銃とは比べ物にならない自動小銃で正確に撃ってくることに、チベットにやっとのことで潜入しても水で顔を洗う時の仕草だけでスパイだと見抜かれてしまうこと、小銃の弾は横に回転してくるのでお腹に当たると傷口は針の穴だが背中には赤ん坊の頭ほどの穴があき、一週間もすると生きているのにウジが手のひら一杯になるほど湧いてくることなど、今であればストップがかかりかねない話を聞かせて下さいました。

現在は、校門からニコニコ堂の方に曲がる角にある福澤さんのお宅がまだその頃は空地のまま、春と秋のお祭りの時期になると色々怪しげな露店が集まってきました。樟脳（しょうのう）船やポンポン蒸気、ふき鉄砲や輪ゴムの連発銃、日光写真や乾かすと消えるインク等々、子供なら絶対に目を外すことが出来ない店を広げているのが、角の理科室や音楽室から良く見えました。放課後、急いでお小遣いを取りに家に帰り、店に駆けつけ、買いたいものとお小遣いの額のギャップに悩むのです。校庭に戻って友達と新しいおもちゃで遊んでいると、武闘派だった福森先生あたりに見つかり、「おい、お前ら、そんなもの学校に持ってきてちゃいかん」と怒鳴られて「わっ」と言って逃げるのです。口答えする子もいませんでしたが、それでへこむ子もいませんでした。天網恢恢（てんもうかいかい）疎にして漏らさず、子供たちは都心にいながら、野生とは言えないまでも、放し飼いの逞しさを身につけることが出来て



いていたように思います。当時は、子供心にもそんな番町が、次の時代にもその次の時代にも変わりなく続いていくのだらうと、漠然と信じていました。

時代は下って30年後。うちの4人の子供たちが次々と番町のお世話になるに伴って、愛育会・愛児会の役員を何度も務めさせていただくことになりましたが、そこで驚いたのは、先生と児童、保護者の大きな変化です。子どもの周りの緩やかな網は、鉄格子に変わりました。先生方には、余裕がなくなりました。特に変わったのは保護者で、学校に子ども達を預かって頂くという立場から、教育という商品を買う消費者の王様が変わってしまったような気がしました。

そして、その数年後、更に驚いたのは廃校問題です。番町自身には何ら廃校の理由がないにもかかわらず、廃校が決まったのです。行政と素朴な当事者との立場の違いを、改めて痛感しました。

私は中高時代、親の転勤に伴い海外に行っていたのですが、数年ぶりに戻って番町に遊びに行き、階上から校庭を見ていたら、見知らぬ先生が「お前は誰だ」と聞くのです。「お前は誰だ は、ないだろう。これは俺の学校だ。あなたこそ一体誰だ」と、心の中で思いましたが、その時の瞬間的な違和感が急に心によみがえりました。先生の立場からは当たり前のことを聞いている訳ですが、こちらは違和感があるのです。ともあれ、その廃校問題の時、多くの方と出会い、多くの経験をしたことにより多くのことを学びました。また、番町の関係者には、多くの有能な人材がいることを改めて実感しました。

番町の一番良いところは、優秀な生徒が集まっているところです。でも、番町とは考えれば考えるほど不思議な学校です。公立校で試験がないのに、優秀な生徒が集まるのです。区立の学校ですが、千代田区が出来ずずっと前からあるのです。地元の学校ですが、地元の子供は戦前から常に3分の1くらいしかいないのです。番町の強みは、煎じつめればその歴史と伝統しかありません。行政的には、番町はあやふやな学校なのです。番町は、残って当たり前の学校ではなかったのです。むしろ一部の人からは、怨嗟（えんさ）の目で見られていたかもしれません。終戦直後の番町廃校問題の時も、同様のことがあったことをその時知りました。番町は自分たちの手で守らなければ守れないのだと、強烈に感じました。

今年、番町はめでたく140歳を迎えます。心のどこかで長い伝統と歴史の何かに応えていこうと

いう意識があれば、自分だけのためではなく、何かもっと大きなものに目覚める子供たちが増えていくのではないのでしょうか。「耐えて 忍びて くず折れず」 これからも、強い意志と広い心を持った番町の生徒が、一人でも多く世に巣立っていくことを願ってやみません。

教室で観た東京オリンピック

新井 充



確か、入学が昭和36（1961）年、卒業が昭和42（1967）年だったと思います。その間の大きなイベントとしては1年生の時に創立90周年、6年生の時に95周年の記念式典があり、また、マレーシア国王ご夫妻のご訪問もありました。

今回、創立95周年の式典の思い出を書くように言われたのですが、95周年はおろか、上記のどのイベントも思い出すことができません。周年行事では、創立記念日の歌（明治四年のこの月この日）を何度も練習させられたのは憶えているのに、皇太子殿下妃殿下をお迎えした90周年の記念式典の記憶は皆無です。マレーシア国王ご夫妻の訪問に際しても、日本とマレーシアの国旗の手旗を両手に持って、振りながらお迎えする練習の記憶はあるものの本番は思い出せません。

さすがに、あれだけ大きなイベントの記憶が無いのはどうもおかしいと思って、母に尋ねてみたら、私はその3つのイベントとも、熱で寝込んで欠席していたとのこと。思い出せないはずです。

では、いったい何を憶えているのか？

非常に印象深く記憶に残っているのは、教室にテレビが入ったことです。昭和39（1964）年、4年生の時、東京オリンピックの直前だったのではないのでしょうか。もちろん、当時、自分の家にもテレビはあったのですが、何故か、オリンピックの記憶は、教室のテレビとセットになって残っています。水泳のドン・ショランダー選手（米国）、体操のチャスラフスカ選手（チェコスロバキア）、重量挙げのジャボチンスキー選手（ソ連）、マラソンの円谷選手等の名前は、開会式や競技を教室でみせていただく中で話題になり、憶えたものだと思います。

テレビの導入と同時に校内放送（BKB？）も始まり、お昼休みに校内ニュースが放映されるようになりました。それをみるのも楽しみの一つでした。中学校に進学した時、校内のテレビ放送が無いことに驚きと淋しさを感じたものでした。

後年、縁あって私の子どもたちが番町小学校にお世話になりましたが、その時には教室にテレビはあるものの、校内放送は無くなっていたようです。今は、携帯電話機の動画録画機能やYoutubeにより、誰でもが映像を公開でき、それをどこでも観ることのできる時代。教室におけるテレビの存在意義も薄れてきているのでしょうか。



昭和39（1964）年 マレーシア国王ご夫妻来校

廣川秀夫さん（昭和17年度卒）、柴田鉄治さん（昭和21年度卒）は、太平洋戦争の頃に在籍していました。東京空襲、そして、疎開。今から70年前の番町小学校です。

創立70周年頃のとりとめない思い出

廣川 秀夫

今年、創立140周年を迎えるわが母校番町小学校に心からお祝いを申し上げます。この永い時間の中で、その時々々の社会情勢の影響を受けつつも一筋の道を持続して今日を迎えることは、多くの先生方、卒業生、職員の方々の熱い思いが大きな原動力であったと改めて感じております。

創立140周年を迎えるにあたり、現同窓会の事務局の方々が、丁度折り返し点に当たる70周年の頃はどんな様子であったのだろう。その頃を思い出して何か書いて欲しい…ということになったのだと理解しました。そんな訳で、はるかに霞む70年前の10歳の頃をやや無理やりに思い出そうと試みました。

私は昭和18（1942）年3月卒業ですから、昭和16（1941）年12月4日の創立70周年の記念日には5年生として在校していたことになります。ところが、70周年のいわば節目の年に、何か特別の式典があったとは思いません。12月4日に学校の式典が講堂であり、校歌（われらが かざせる）や創立記念日の歌（明治四年のこの月この日）を斉唱しました。そして、全校生徒に、校章をかたどった紅白の粉菓子（白い薄いボール箱に入っていた）が配られました。戦時中で、そろそろ砂糖が乏しくなり始めた頃に、よく出来たと思います。また、その日だったか翌日だったか曖昧ですが、全校（幼稚園も含めて）学芸会が開かれ、ご父兄も見にこられました。来賓をお招きするなどの派手派手しい行事ではなく、慎ましいものでした。しかし、我々生徒は、他の小学校とは違う特別の歴史を持った学校という、何か誇らしい気持ちを抱いたものでした。

考えてみれば、私達の年代は戦争とともに小学校生活を過ごしたことになります。入学した昭和12（1937）年に支那事変勃発、70周年の創立記念日の4日後、昭和16（1941）年12月8日早朝にアメリカ・イギリス・オランダとの開戦の放送が流れ、太平洋戦争が始まりました。この年の4月に国民学校と変わったので、我々は番町小学校に入学し、番町国民学校を卒業したことになります。手許にある古いアルバムには、『東京市麹町 番町国民学校 修了記念』とあります。名称は、時の行政の都合、あるいは不見識で変えられるのでしょう。問題は言うまでもなく中身にあります。

記憶の曖昧さを恐れ、数人の級友に当時のことを尋ねてみました。古いことは得てして女性の方が記憶鮮明と思いましたが、悲しいことに男子組だった梅組のOBは、誰一人同級女子の連絡先を知りません。電話口で記憶を探っていくと、皆が異口同音に口にするのは、最初の東京空襲のことでした。

昭和17（1942）年4月18日の正午過ぎのことです。6年生になったばかりの快晴の土曜日、掃除当番を終える頃、パンパンと言う高射砲音が響きわたりました。演習かなと思い屋上に駆け上がると、西側の市ヶ谷の方向（大本営があった）に見慣れない黒い機影が右から左に割合低空で飛んでいき、高射砲の破裂痕が昼の花火のように見えました。飛行機が通過した後にはその花火のような破裂痕が残って、まったく当たっていません。防空のための気球も幾つか上がっていましたが、春の空には演習としか思えない情景でした。その後



http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/hatukuusyuu.htm

10分くらいして、空襲警報のサイレンが鳴り響きました。屋上にいた我々は、地下の小使い室に集められました。何人いたかは判りませんが、しばらくしたらそれぞれ帰宅せよとのことで、私は5分ほどの家に帰りました。すでに防空頭巾を持っていたかどうかは、定かではありません。明るい春の午後の町が、妙に静かでひっそりとしていました。

戦争の足音が間近にせまってきた中で、この年、我々6年生は伊勢・奈良への修学旅行に出かけました。これが、たぶん最後の小学生修学旅行になったと思われます。お米2~3合と梅干を持参して、夜行列車で品川から伊勢神宮に向かって出発しました。時期は特定出来ませんが、暑かった記憶があります。外宮、内宮、二見が浦、猿沢の池等々断片的に微かな思い出があります。翌年の3月に卒業（修了が本当か）し、それぞれの進学先へと別れました。戦争の影が日々色濃くなり、学童疎開もそろそろ始まりました。以来永い時が、波乱に満ちた時が流れすぎました。面影の変わった校舎の前庭に、今年も梅が花開いているでしょうか？



1年生 遠足 昭和18年10月

番町小学校の思い出

－開戦・空襲・疎開・敗戦…激動の6年間－

柴田 鉄治

「昭和22（1947）年に卒業した私たちの世代は、番町小学校に一日も通学していません。」というと、みんなびっくりされるのですが、こういことです。入学した昭和16（1941）年から小学



校は国民学校と改称され、卒業した後の昭和22（1947）年からまた小学校に戻ったからです。

「戦う少国民を育てるために」と改称されただけあって、国民学校の教育は軍国主義一色でした。「鬼畜米英」「欲しがりません、勝つまでは」といった標語が繰り返し叩き込まれ、野球のような「敵性スポーツ」は禁止、相撲番付の形でクラス全員の「階級」が指定され、まるで先生を部隊長とする「小さな軍隊」のような学級生活でした。



モールス信号や手旗信号も重要な学習項目で、私たちのクラスでは、先生が教員室からモールス信号で教室内のブザーに指示を出し、生徒たちはそれが理解できないと居残りになる、といったこともしばしばでした。

私たち男子組の将来の夢は、全員が「兵隊さんになる」というもので、クラスの相撲番付でいつも最下位だった私のような虚弱児でさえ「将来は航空兵に」などと言っていたのですから、教育の威力は大変なものです。いや、「マインドコントロールの怖さ」というべきでしょうか。

開戦直後の1、2年生の頃は、「シンガポール陥落」とかのお祝いの旗行列によく動員されましたが、2年生の時に東京初空襲があり、4年生になると学童疎開の命令が出ました。番町小の行く先は山梨県でしたが、私のような虚弱児童は鎌倉の臨海学園に送り出されました。10歳にも満たない子どもたちが親から引き離され、集団生活を送るだけでもつらい体験なのに食べ物も十分になく、私は栄養失調から身体中におできができるという悲惨な疎開生活でした。

5年生の時に終戦。6年生の新学期からやっと学校らしい雰囲気に戻り、授業も再開されましたが、東京が一面の焼け野原になって、4年生の時

の生徒のざっと半数しか戻ってこれませんでした。

当時の校舎は、中は焼けてもコンクリート建ての枠組みはしっかりしていたため、震災で家を失った人たちが大勢、校舎の中に住み込んでいました。つまり、学校の半分は生徒たちの教室で、あとの半分は被災者たちの臨時アパートになっていたのです。ひどい環境の中で、しかも不都合な部分に墨を塗った教科書による授業の再開でしたが、それでも私たちは、空から爆弾が降ってこない平和のありがたさを心の底からうれしく感じていました。そして6年間のうちの最後の1年間、この1年間だけでも静かに勉学に励めたことの幸せを、私たちは心に刻みつけたのです。

「戦争はごめんだ。あんな学園生活を二度と繰り返してはならない」－それが、私たちの世代全員に共通する番町小時代の思い出です。



焼け跡の運動会 昭和21年10月

それから50年。皇太子様をお迎えして、華やかにお祝いした創立120周年記念式典。しかし、そのすぐ後に区が発表した千代田区公共施設適正配置構想により、10年近く校歌・校章がなく、記念式典もありませんでした。その頃在籍したのが幸田渚都貴（さつき）さん（平成10年度卒）、大堀裕佳さん（平成13年度卒）です。

番町小学校140周年に寄せて

幸田 渚都貴

卒業して13年、私は今番町小学校の近くで働いています。たまに電車で後輩たちの姿を見かけると、広い校庭や飼育小屋、大きな桜の木、そしてスキー教室や自然体験の思い出が蘇り、とても懐かしくなります。大人になった今だからこそ、

都会の小学校にいながら自然と接するたくさんの機会があったということが、どれだけ恵まれ



たことだったか実感できるのかもしれませんが。

その中でも、特に記憶に残っていたのは箱根高原学校に行き、生まれて初めての登山を経験したことでした。当時の私はどちらかといえば運動が得意な子供ではありませんでしたが、全員で金時山の山頂に辿り着いた時の達成感はそれまで味わったことのない新鮮なものでした。山頂から麓に下りるまで、疲れているはずなのに気持ちがふわふわと弾んでいたのを、今でもうっすらと覚えています。きっと山の空気や、花や遠くの景色を見ること、枝や木に捕まりながらおっかなびっくり岩や根っこの上を歩いた体験は、小学生の私にとっては『山登り』というより、ちょっとした『冒険』のようなものだったのだと思います。勿論、低い山とはいえ子供には山登りは一苦勞。楽しいことばかりだったとは言いきれません。けれど、小学4年生という多感な時期に、大勢の友達と苦勞を乗り越えて同じ感動を得られたことは、私達にとってとても大きな財産になったと思います。

そのおかげかはわかりませんが、社会人になった今、私は会社の登山部に所属しています。インドア派だった4年生のときの私が知ったら、きっとびっくりするでしょう。

気持ちに余裕を持つことが中々難しい時代だからこそ、子供達が自然の中でのびのびと感受性を伸ばせるような体験を大切にする伝統が、これからも続いていくてくれたらいいなと思います。

番町小学校の代表として

大堀 裕佳



私は平成8（1996）年に入学、平成14（2002）年3月に卒業しました。番町で過ごした6年間のできた数々の思い出は、今でも鮮明に私の記憶に残っています。その数々の思い出の中でも特に印象的だったことは、番町小学校代表として出場した数々のスポーツ大会及びその大会前に行われた練習です。

私が番町に在籍していた時に行われていた大会は、「わんぱく相撲大会」、「連合陸上競技大会」、「スワンカップ」、「少年野球大会」、「少年野球駅伝大会」などがあります。これらの大会は、私が実際に参加または出場した大会だったため、特別

な思いがあります。幼い時から体を動かすことが大好きだった私は、授業の中でも体育の時間が一番楽しみでしたし、中休みの時間も毎日校庭に出て遊んでいました。

こんな私が、初めて番町小学校代表として出た大会が「わんぱく相撲大会」でした。1、2、3年生の時に出場し、1年生で優勝、2年生で準優勝を果たしました。それまで大会というものに出場したことがなかった私は、小さな大会とはいえ優勝という大きな賞を獲った時、言葉に表せない嬉しさを感じました。

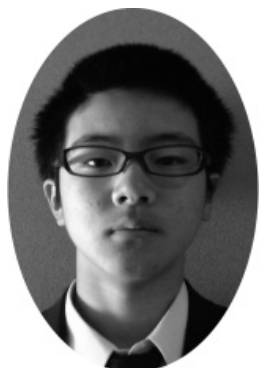
また、5、6年生の時に出場した「連合陸上競技大会」では、2年連続、個人で出場した種目と4×100メートルリレーでそれぞれ入賞、優勝を果たしました。大会で予想外の良い結果を残せたことはうれしいことでしたが、何よりも忘れられないのは大会前に体育の時間に行われた練習と、校庭で行ったリレーのバトン渡しの練習です。リレーは、番町代表選手として選ばれたという責任感があったため、本当に真剣に取り組んだ記憶がありますし、当時の担任の先生の熱心な指導は今でもよく覚えています。

決して大きな大会とはいえませんが、その大会のために練習を重ね、大会に出て賞を獲ったことは、番町小学校の生徒として誇りを持てた貴重な経験となりました。

平成18（2006）年12月、15年ぶりに創立135周年の式典が行われました。西岡史音（ふみと）さん（平成18年度卒）の思い出です。

創立135周年の思い出

西岡 史音



135周年の時に、小学校6年生だった私の一番の思い出は、何と言っても所属していた少年野球チーム・番町エンジェルスのことです。あの年、30年以上ある番町エンジェルの歴史始まって以来、夏と秋の千代田区大会二連覇に加え、11月には第23回ヤクルトスワローズ杯東京23区少年軟式野球大会において堂々の3位となりました。

この結果は自分たちの力だけでなく、監督、コーチ、保護者の方々の支えの賜物であると実感

しています。当時の星野校長先生、額賀副校長先生、諸先生方がみんな応援に来てくださいました。番町子ども会の時には、六番町の方たちが、エンジェルの優勝をお祝いしてくださいました。135周年は、野球を中心に番町小と地域がみんな一つになっていた、私にはそんな気がしました。140周年も135周年と同じくらい、いや、もっと盛り上がってくれたら嬉しいです。



ところで、平成22（2010）年12月に現在のエンジェルスは、ついに都知事杯準優勝を飾りました。当時2年生だったあんなに小さな子たちが、自分たちの歴史を塗り変えたことに、すごい成長と進化を感じます。

竹川勝治さん（昭和49年度卒）、水谷知晴さん（昭和53年度卒）、遠藤努さん（昭和58年度卒）の在籍は、それぞれ100、105年、110周年の頃です。

創立100周年の頃の思い出

竹川勝治



私の一番の思い出は、「創立100周年事業」と卒業制作「龍の彫り物」です。

「創立100周年事業」は、先生方、在校生そして父母の多くの方々が天皇陛下を番町小学校にお迎えすることに、誇りと感動を憶えておりました。また、卒業制作

「龍の彫り物」は、ロビーで今でも私たちを待っています。私たちの宝物です。

番町小学校 昭和49（1974）年度卒（第102期卒業生）の文集「飛龍」の同級生の作文から、6年間の思い出を記してみました。

1年生 「入学式」「初めての給食」「4月：新宿御

苑」「集団下校」「10月：井の頭公園」「秋季大運動会」

2年生 「4月：遠藤校長先生から小山校長先生へ」「5月：砧ファミリーパーク」「クインズ二十四小学校交歓会」「全校ページェント（希望の町）」「8月：校舎取り壊し始まる」「10月：新宿御苑の全校遠足」「11月：アサヒビール・永谷園工場見学」「漢字征伐」「九九 三分間テスト」「ハーモニカテスト」「学芸会：森のこだま」

3年生 「4月：ユネスコ村」「初めての委員会・クラブ活動」「プレハブ校舎」「こいのぼり体育集会と学級マスコットのとんぼ」「番町体操」「区内めぐり」「6月：区役所見学」「石渡さん」「おおむの太郎と猿のペー子」「10月：創立百周年記念大運動会」「よみうりランドの全校遠足」「12月：創立百周年記念の集い・ファランドール」「創立百周年記念展覧会」「創立百周年記念資料展」「3月：新校舎落成式・教室移動」

4年生 「組替え」「5月：創立百周年記念式典」「全校ページェント(昭和天皇皇后両陛下の前で)」



「5月：こどもの国」「8月：多摩川林間学校」「中央卸売市場見学」「9月：プール竣工式・地下通路」「11月：区連合学芸会・四辻のピッポ」「2月：羽村取入口・境浄水場」「自分のマーク作り」「学級歌」

5年生 「5月：高尾山」「6月：演劇教室・桃次郎の冒険」「七夕集会」「8月：鎌倉臨海公園」「11月：日産自動車・明治製菓工場見学」「こいのぼり集会」「番町たんぼ」「初めての調理実習」「第十一回全国小学校社会科研究協議会東京大会」「全校ページェント（未来への番町）」「全長60メートルの巨大な龍」「引き継ぎ集会」「連合音楽会：アルルの女第二組曲・パストラール・インターメッツォ・ファランドール」「お師匠さん」

6年生 「新一年生歓迎集会」「マラソン」「屋上遠

足」「8月：箱根高原学校」「龍の下絵：昭和49年9月12日」「9月：番町ひょうたん池落成」「なかよし小鳥小屋完成」「全校ページェント（番町の四季）」「10月：ホルツ先生御来校」「10月：箱根移動教室」「スポーツテスト」「希望の花壇（プール横）」卒業制作「龍の彫り物」「学級レポーター：1組・星に願いを：2組・シング：3組・太陽にほえろ：4組・戦争を知らない子供達」「2月：都内見学」「3月：学芸会」「卒業式」

創立140周年によせて

水谷 知晴



本年は創立140周年の節目の年であり、同窓会役員諸先輩のみならず、私たち同窓生一人一人が懐かしい小学校時代を思い返す良い機会となります。私自身、昭和54（1979）年3月卒業以来、32年余りが経ちまし

た。これまでは日常生活に追われ、改めて小学校時代を振り返ることも稀でした。しかし、40歳を過ぎ、ご縁を頂いて同窓会の方々とお目にかかる機会や久々に学校を訪れることがあり、さまざまに思い出を手繰ることが増えています。

番町小学校の良さを改めて考えてみますと、第一に「歴史と伝統」。第二に「学校と家庭と地域の連携」。第三に「同窓会の絆」ではないかと思えます。

申すまでもなく、明治4年以来、日本の近代化を支えた初等教育のモデルとしての使命を果たしてきた番町の校風、歴史、伝統は、天皇皇后両陛下をはじめとした皇室の方々のご臨席を仰いで行われる周年行事や、外国賓客のご来校などを通じて生徒たちに自然と伝わっています。私も迎賓館で日の丸の小旗を振ったり、中国から鄧小平副総理（当時）夫人が学校に見えたりしたことなど、今でも鮮明に覚えています。小学校高学年にもなると反抗心も芽生え、そういった行事に素直になれなかったことも併せて懐かしい思い出です。

また、第二の「学校と家庭と地域の連携」については、昨今の教育をめぐる問題の一つでもあります。情熱的な先生、躰と規則正しい日常生活を心がける家庭、そして地域の方々の学校への理解、これらが三位一体となって豊かで伸びやかな子ども達が育まれます。愛育会をはじめ、番町小



学校にはその素地が自然と備わっているように感じます。実家で久々に番町の話をしたときに、母が取り出した愛育会の連絡名簿にそこはかたない安心感を覚えました。

最後に、番町の大きな財産は、各界で御活躍の方がたくさんいらっしゃる同窓会の絆の強さです。人生を長く生きていく中で、同じ学び舎に過ごしたことを大切にする人々が、どれだけ助けになることでしょうか。定例の同窓会行事や記念行事だけではなく、日頃から絆を強め、またオープンに新しいメンバーを迎えてくれる本当に有難い存在です。是非、140周年記念行事をきっかけに、より多くの若いメンバーも積極的に参加するよう働きかけていきたいと考えます。

12月の記念式典に向けて、記念事業協賛会をはじめとして同窓会の皆様には、一層ご多忙になろうかと存じます。番町に学んだ者、今学ぶ子どもたち、そして将来番町の門をくぐる子ども達にとって、誇りに思える歴史の一ページがまた創られるのだと期待しつつ、微力ながらその一助となるよう精進したいと思っております。



創立140周年記念事業協賛会 H23.3.18

創立140周年に向けて

遠藤 努



今年で『40歳』、祖母が『100歳』という家族の節目の年に、「創立140周年に向けて」というテーマでの原稿依頼を受けたのは、とても嬉しいことだった。ところが、テーマに沿うべく、いざ自分の10歳（100周年）当時の記憶を引っ張り出すぞ！と意気込んではみたが…。30年という歳月を隔てた少年時代の記憶は、お恥ずかしいことに断

片的でまとまりに欠けるものばかり。帰宅後にランドセルを放り投げ、お目当てのゲームウォッチを持っている友人宅に直行。牛乳瓶のキャップを集めに秋葉原駅の牛乳スタンドへ…。あっ、思い出した。そうだ！自分は両親に駄々をこねて買ってもらったピカピカのトランペットを、来る日も来る日も夢中で吹いていたのだ!!

さて、小生が同窓会の活動にリンクしたのは、今から遡ること10年前。三十路を迎える年に企画した6年2組のクラス会で、ちょうど130周年記念式典の準備を進めていた旧・同窓会の存在を知り、その式典で運命の合流、学年幹事を引き受けたのである。就職氷河期世代の上、カミングアウトさせてもらうが、社会からひきこもってしまう障害を抱えていたため、安定した仕事に就けずに居場所を求めブラブラしていた。そんな中、参加させてもらった「番町子ども会」で、若さに満ち溢れるエネルギーがカンフル剤の如く注入され、病気は見事に癒されたのである。人とのつながりが治療上不可欠だったところに、『同窓会』がもつ強力なつながりで、心はすっかり元気を取り戻した。今では、疲れた時に活力をチャージする休憩所のように活用させてもらってさえいる。というわけで、陰ながら小生のことを気かけ、暖かく支えて下さった同窓ならびに多くの学校関係の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、これをお読みになって『子どもの頃の元気を取り戻したい!』『人とのつながりが恋しい!懐かしい!』等々と思われた方々は、ぜひともその『想い（力）』を同窓会に届けて下さい。その『力』を若い世代に伝え、母校の記念日を一緒に盛り上げて『元気・つながり』を取り戻し、ひいては永い人生を豊かに支えてくれる居場所を築いていこうではありませんか！一人でも多くの方のご参加と母校の益々の発展を心より願っております。よろしくお願い申し上げます。



平成22年度番町子ども会にて

栄えある二度目の卒業式

番町小学校同窓会前会長 黒川 浩



私が番町を卒業したのは昭和20（1945）年2月25日。小学校ではなく、国民学校といわれた65年も前のことである。入学した時は200名もいた同級生が、敗戦直前には東京から次々に離れ、卒業式に出席したのは100名少々だった。いつ敵機が来るかと不安な思いで、式は一時間足らず。記念撮影もお別れ会もなく、早々に校門を出た。校舎は2ヶ月後の大空襲で焼け、私たちも焼け出され散り散りになった。うち二人は、広島で原爆の犠牲になってしまった。

そんな時代に育った私たちだが、同期会を毎年開き旧交を暖めているが、転校のため、番町を卒業できなかった友人が沢山いるし、卒業式に出て戦災で卒業証書を失った友人がかなりいる。そのことを60歳になる頃、区教育委員会で話したところ、転校した者には在籍期間を明示した「修了証明書」を、戦失した者には「卒業証明書」を発行するという粋な計らいをしてくれた。そこで、平成4（1992）年6月、母校で改めて「還暦卒業式」を開催した。お元気な恩師森田、石川両先生が立ち会い、卒業生よりも若い校長先生から一人一人いただいた。栄えある二度目の卒業式だった。

喜寿（77歳）を迎えた去年の同期会でも、“我らが飾せるこの梅の花こそ心のしおりなれ”（校歌）と“明治四年のこの月この日 この学校は初めてたちぬ”（記念日の歌）を声高らかに合唱した。

戦争を知らずに育った幸せな皆さん、ご卒業おめでとうございます。

平成21年度卒業生 卒業記念誌『旅立ち』から

2009年に卒業30年を記念して学年会を開くという学年があり、その年から卒業20年、30年、40年、50年にあたる学年には事務局から開催をお願いしています。

還暦を迎えても社会の中心で活躍をしているため、なかなか集まりにくいのが昭和30年代の卒業生ではないでしょうか。でも、「卒業50年の記念に学年会を」というHome Coming Dayの趣旨をご理解頂いて開いて下さり、大変ありがたく思っております。

また、仕事場の中心だったり子育て真っ最中だったりする

昭和40、50年代、平成一桁の卒業生。どの学年も、それぞれの理由で小学校の同期会まではなかなか足を運びにくいと思います。でも、顔を合わせると、あっという間に〇〇ちゃん、××君と呼び合い、思い出話はいつまでもつきないようです。その顔の輝いていること！遠藤さんが書いているように、小学校の同窓会は心のカンフル剤なのかもしれません。

今年度は総会開催の年のため、Home Coming Dayはありませんが、ぜひ総会に足をお運び下さい。

Home Coming Day2009（平成21年12月5日）

Home Coming Day2009

昭和44年度理事 西岡 眞理子

当日は寒く雨が強く降る中を、97期同期生15名が番町小講堂に集まりました。

2年ごとに12月初めの土曜日に同期会を開催していますが、今回は卒業以来初めてという者があり、卒業以来全く変わっていない番町小講堂で、私たちが作った講堂2階の壁に製作したタイルを

見て感慨ひとしおでした。

途中校舎1階の資料室を見学し、入学してすぐにマレーシアの国王ご夫妻の歓迎行事をしたことを、写真とともに思い出しました。懐かしい岩上先生の指揮で創立記念日の



歌と校歌を歌いましたが、先生の指揮の手が挙がると、昔と同じくピシッと緊張するものですね。その後岩上先生を囲んで歓談しましたが、つい最近インドに行かれたというお話、またこの雨の中を、NHK交響楽団の定期演奏会に行かれるという活動的なところは、我々 50代も見習わなくては、と思いました。

その後アルカディア市ヶ谷私学会館にて、旧1年4組担任阿部富美子先生、旧6年3組担任正田州男生、旧3年3組担任村岡汎子先生を交えて同期会を開催しました。

当日、昭和39年度6年1組がクラス会を開いた後参加して下さり、会場はさらに賑やかになりました。

昭和36年度学年会

あいにくの雨模様で寒く、夕方からの同期会参加者は多いものの、学校に来るという返信は少な

かったとの理事のお話。しかし、ふたを開けると沢山の方が集まり、旧交を温めました。歓談中、資料室に行って懐かしい校舎の写真などを見学して話が弾み、講堂に戻って校歌や創立記念日の歌を歌った後、一緒に夕方の街を同期会会場に向かって行きました。



Home Coming Day2010（平成22年12月4日）

昭和22年度卒業同期会

昭和22年度幹事 佐藤 章一

平成22年12月のHome Coming Dayに、母校講堂で同期会を開催し13名が出席しました。久しぶりの会合で話が弾んだ後、母校1階の資料室で集団疎開時代の写真などを見、今となっては懐かしい当時の思い出を語り合いました。その後、再び講堂で他年次の方と一緒に校歌などを歌って、これもまた愉快的な時間でした。

私たちの学年は第二次大戦開戦の翌年、国民学校に入学し、3年生の秋から集団疎開、翌年4年生の時に終戦という時期にあたっています。（同級生で）一つの小学校にのみ在学し、卒業した人はほとんど例外的でしょう。私の場合は、3年生の1年間と5年3学期から卒業までの番町在学でした。

特に、富士吉田町への集団疎開の時には、空腹

をかかえつつ薪を運び、溶岩だらけの土地に畑を作るための土を運び、食料の足しにする野草を摘んだことなど、共通の記憶でしょう。昭和20年の冬、澄み切った青空に真っ白な富士山がクッキリとそびえ立つ、その空をB29の編隊が爆音を響かせて飛んで行く姿は忘れられません。富士吉田町の町外れの寮の辺りに敵機が爆弾を落とす可能性

はほとんどないので、退避もせずに眺めていたものです。後年、私が米国NY州ロングアイランドの研究所に駐在していた時に、NY市から1時間足らずのところにあるグラマンの大工場の脇を通りかかり、こんなところで、機銃掃射で嫌がらせをやりまくったグラマンが作られていたのかと、

感慨深いものがありました。

今回、母校を訪れ、昔のH型校舎がI型になり、また新しく蓋付きのプールが出来てかなり印象が変わりましたが、校舎の入り口付近など、なんとなく昔を思い出す感じがあります。資料室が



出来て、長い番町の歴史が残されているのは有り難いことです。我々の在学期間、集団



疎開の時期などは歴史の長さの中でわずかな期間と思いますが、二度とこのような事が起きぬように願うばかりです。

この度は、同窓会役員の方々に大変お世話になりました。思い出を懐かしむ機会を作らせて頂き、感謝いたしております。

「Home Coming Day」 と「同期会2010」

昭和45年度幹事 柳田 知子
(旧姓 阿部)

12月4日、母校の創立記念日に行われたHome Coming Dayは、私達45年度卒にもお声がかかり、ストーブの焚かれた講堂で昭和22年度や平成元年度の方々と共に一時を過ごしました。途中から戸島照子先生、高井照子先生（幼稚園）もおみえになり、お母様方も参加され、和やかに語りました。また同期の河村真紀子さん（旧姓 中村）と林 千史さんがそれぞれピアノとバイオリンを担当され、エーデルワイスの演奏に続き、スキー・富士山・創立記念日の歌・校歌を合唱しました。世代を超え、皆様が一緒に歌ってくださって嬉しく思いました。この機会をもうけてくださった同窓会関係者の方々には、心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

45年度卒はまたの名を98会（第98回卒業生の会）といいます。今回はHome Coming Day終了後、午後6時よりアルカディア市ヶ谷にて同期会を開きました。こちらの方にも先の両先生がご参加され、生徒合わせて32名の出席となり、校歌はもとより幼稚園の園歌まで合唱し、大変賑やかに過ごしました。卒寿を迎えた戸島先生の明るさ、また、次



の世代のためにあなたたちが頑張っていて欲しいと話された高井先生の熱を帯びたお声に、励まされる思いでした。

皆も51～52歳となり、それぞれの思いのこもったスピーチにも何かしら胸に浸みるものがありました。2次会から駆けつける人も多く、3次会でも名残が尽きず、とうとう12時を過ぎてもお別れがたい思いで一杯でした。

私達の子ども時代とはうってかわって、今の世の中はあまり明るい要素が見出せない状況が続いています。それでも、こうして旧交を温めあい、互いの無事を確かめ合うことができたのは本当に幸せなことです。すべての縁に感謝して、またきっと再会できることを心から祈りたいと思います。



Home Coming Day翌日、昭和49年度の同期会が小学校近くのお店で開かれました。

初めての同期会

昭和49年度理事 竹川 勝治

平成22（2010）年12月5日（日）、昭和49年度（第102回）卒の同期会を開きました。卒業して36年、初めての同期会でした。

私たちは昭和37（1962、寅歳）年4月から昭和38（1963、兎歳）年3月生まれ。昭和43（1962）年4月に入学、昭和50年（1975）3月に卒業しました。

始めは6年2組のクラス会を考えていたのですが、担任の島田稔先生から「クラス単位で集まると先生が健在のクラスは集まりやすいが、そうでないと集まらなくなってしまうので、学年単位で行った方が良い」との助言を頂き、同期会にしました。3年3組（とても仲が良いクラスだったとのこと）の時の担任 正田州男先生、図工の西野範夫先生にもいらしていただきました。午前11時、番町小学校に集合し、我々の卒業制作作品である

「飛龍の彫り物」の前で記念写真を撮影しました。有馬校長先生のはからいで、記念資料館（創立140周年記念事業のた



めに準備中)の見学もさせていただき、その後、ニコニコ堂のななめ前にあるセルバンテス文化センター内のメソン・セルバンテスで会食をしました。開会宣言後、同窓会事務局長の豊島快児さんに「創立140周年記念事業」のお話をして頂きました。同期会で初めて話をした方々もありましたが、私たちが演じた「四辻のピッポ」、演奏した「アルルの女」、悩んだ?「東海道五十三次テスト」、「3分間テスト」、集会の大好きな番町小学校（鯉のぼり集会…歌詞中「たちまち龍になりぬべき…」のフレーズから、会名が生まれました）、全校ページェントなど懐かしい話が出てくると意気投合!素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

特に、正田先生が持ってきて下さった「先生と生徒の連絡用紙」(?)には、当時のことが思い起こされるような「言いつけごと」や「夢」が書いてあり、皆の笑いを誘っておりました。15時に会食が終了し、お名残り惜しかったのですが先生方をお送りしてから二次会、三次会と素晴らしい一日を過ごすことが出来ました。

最後になりますが、今回参加出来なかった6年1組担任の五月女ミツ子先生から、同期会に名前をつけるようにとの言付けがあり、満場一致で第102回卒の同窓会名は「飛龍の会」と命名されました。



番町小学校の歴史の上で、千代田区公共施設配置構想は大きな出来事でした。その頃の思い出を卒業生で、当時は保護者でもあった大堀貴子さん（昭和38年度卒）が書いてくれました。

長男の番町小学校

大堀 貴子



平成2（1990）年12月4日、皇太子様のご臨席を賜って執り行われた創立120周年記念式典のすぐ後に、区は千代田区公共施設適正配置構想を発表しました。それにより平成5（1993）年4月1日から母校 番町小学校は、

「千代田番町小学校」という名前になりました。

私の長男は、その平成5（1993）年の新入生でした。普通なら記念すべき第一期生ということになりますが、校歌も校章も決まらないまま入学式を迎えたため、式では君が代と、校歌の代わりに、なんと！童謡のチューリップを歌うことになりました。校名が変わっても、我らがかざせる…と、以前の校歌を歌えるものだと思っていた私は、驚きと共になぜ?とがっかりしたものでした。

その上、4月1日は「千代田番町小学校」という名称だったのに、12月1日には千代田が取れて「番町小学校」に校名変更されました。私には校名変更というより校名が戻ったという感じでしたが、明治4年からの歴史が続いているのではなく、新しい「番町小学校」になったとされました。ですので、2年生の時は新しい小学校の2年目と数えられ、3年生になって、やっと現在使われている梅の校章が出来ました。卒業生である私にとって、校歌が認められず、校章が替わるのは残念なことではありましたが、新しく入学した子どもたちには、それが自分たちの母校の証になるわけです。

校章が替わり、校歌がなくても、長男は4年生から番町エンジェルスに入り、私も練習を見たり、試合の応援に行ったり、お手伝いしたりしました。親子で楽しい時間を共有出来たことが、一番の思い出になりました。しかし、校歌は6年生になっても決まらなかったため、卒業式にも校歌を歌うことが出来ずに卒業することになったのです。

私は、3人の子ども（平成7年度卒、平成10年度卒、平成13年度卒）を番町小学校に通わせました

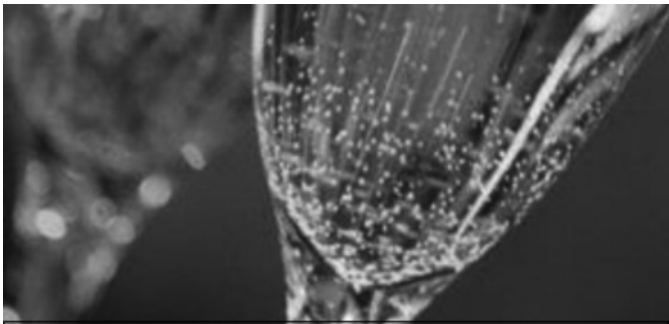
が、真ん中の長男の時が校歌・校章がない一番不運な時代にぶつかってしまったと、今でも思っています。もっとも、そう思っているのは親の私だけで、当の本人はまったく気にしていないようですが…。



龍名館本店
～ご宿泊・会議・ご宴会～

JR 御茶ノ水駅から徒歩3分
東京都千代田区神田駿河台 3-4
TEL.03-3251-1135

題 字：故 内田禮江さん(昭和19年度卒)
校章デザイン：鈴木健之さん (昭和45年度卒)



懐かしい思い出の数々を語り合い、ご親交を深め
合う同期会・クラス会を開催しませんか

ハイアット リージェンシー 東京 東京都新宿区西新宿 2-7-2

宴会部 宴会セールス課 国内セールスマネージャー
鈴木 一成 Phone:03-5321-3540(直通)

(当日開催ご希望の学年・クラスは、ご連絡の際「同窓会事務局より紹介された」とお伝え下さい。)

資料収集について《お願い》

資料室の充実を図るため、教科書や委員会バッチなど、お持ちの資料をご提供頂けませんか。
(卒業証書や写真等の貴重な資料は、お預かりしてコピーを作り、原本はお返し致します)

○ **同窓会会費 2,000円 (青色伝票)**
記号・番号 00160-7-352085

○ **創立140周年記念事業協賛会 3,000円 (赤色伝票…払込料金加入者負担)**
記号・番号 00160-1-595940

※記念事業協賛金は、同窓会員、愛育会員他の皆様のご協力を頂き3/15現在 3,223,000円となりました。有難うございました。引き続き7/末日までご協力をお願いしておりますので、よろしくお願い致します。

※同窓会費と払込先が異なりますので、お間違えのないようご注意ください。

【ベルマークについて】

☆ ベルマーク収集にご協力下さった同窓生の皆様、有難うございました。(順不同)
橋本かほるさん、丸山洋子さん、蔵田隆之さん、遠藤努さん、石上貴之さん、中村香織さん

☆ 今後もベルマークを収集し、愛育会に協力していきたいと思いますので、下記までお送り下さい。送料はご寄付頂ければ幸いです。

〒102-0085 千代田区六番町8 千代田区立番町小学校内 番町小学校同窓会事務局ベルマーク係

○ **平成23年度 創立140周年記念総会**
日時：平成23年12月4日(日) 14:00～
※詳細につきましては、決まり次第ご案内をお送り致します。

○ **平成23年度 同窓会 U-20 (平成15年度～平成23年度卒業予定の現6年生が参加)**
日時：平成24年3月25日(日) 14:00～ 番町小学校講堂 (予定)
※詳細につきましては、決まり次第ご案内をお送り致します。

千代田区公共施設配置構想による番町小学校の変遷

- 1991.12.04 創立120周年記念式典が、皇太子陛下のご臨席を賜り挙行される。
- 1991.12 千代田区が公共施設適正配置構想を発表。
小学校14校、中学校5校をそれぞれ8校と3校に統廃合し、残存の余剰地を福祉・厚生施設等に転用するもので、1993.4より施行される。
1992. 区教育委員会の指示で番町幼・小協議会が発足し、新小学校の校名を決定するために、月1回のペースで開催される。区内各地域で反対運動が起きたが、賛成者もいたことで対立が起きた。
- 1993.03 番町幼・小協議会は新校名・幼稚園名を“番町”と決定し、区教育委員会へ申請・通知する。
- 1993.04 区教育委員会は申請・通知を受理せず、千代田番町小学校として新年度を迎える。
校章及び校歌は未定、空白のままだった。
- 1994.01.01 区教育委員会は校名変更を発表、番町小学校となる。
- 1995.05 番町幼・小協議会が招集され、校章・園章についての話し合いが開始される。
協議会のメンバーは梅の校章を提唱したが、学校側は梅にとらわれないデザインを要望した。
- 1995.07 校章を梅とすることが決まる。
創立85、90、100及び120周年当時の梅の校章は少しずつ細部が違うということで、どの形を採用するか話し合う。出席者一同はすべての形を参考にし、デフォルメしないことを前提にしてデザインを依頼した。デザインは、図画工作専科の菊池教諭（当時）が担当することとなる。
- 1995.11 番町幼・小協議会が再度召集される。席上、新校章・園章のデザインが発表される。
それぞれ1作品の提示で選択の余地はなく、選択されない場合、この年の6年生は校章なしの卒業式になるとの説明で、校章・園章と決定した。
- 1996.02.03 校章・園章制定式典が挙行される。
- 1997.05 再度番町幼・小協議会が召集され、新校歌・園歌の話し合いが開始される。
出席者は“我らがかざせる”を要望。
- 1998.03.16 学校側は一部のメンバーを招集したが、新校歌の承認を得られなかった。
- 1998.05 有志及び教員による話し合いが始まり、打開策を模索することとなる。
この会合には後に青木校長（当時）も出席し、相互の接点について話し合いが持たれた。その結果、学校側は“我らがかざせる”の存続を認めたが、公立学校として区の方針にも従わざるを得ないため、卒業生である中田喜直氏に校歌の制作を依頼することで双方合意し、校歌を2曲とすることが内定した。
- 1999.04 中田喜直氏に制作を依頼し、快諾を得る。
- 2000.02.05 “我らがかざせる”・“輝いて今日を”を校歌として制定し、お披露目式典が挙行される。
- 2001.04 足かけ3世紀そして130年を歩んできた番町小学校の歴史を振り返る年とする。